

消防ポンプ自動車(CD- I 型)仕様書

令和8年度事業

笛吹市消防本部

第1章 総則

1 目的

この仕様書は、笛吹市消防本部(以下「当消防本部」という。)が、令和8年度事業で購入する消防ポンプ自動車CD-Ⅰ型(以下「車両」という。)の仕様について定める。

2 購入台数

1台

3 納入期限等

(1)本件における仕様についての担当課は、当消防本部消防課とする。

(2)納入期限は、令和10年3月24日(金)とする。

(3)納入場所は、山梨県笛吹市石和町下平井204番地「笛吹市消防本部」、配置場所は、同番地、「笛吹市消防署」とする。

4 検査

車両に関する検査は、次のとおり当消防本部担当者及び受注業者立会の上、実施する。

(1)中間検査

当消防本部、受注者及び車両製作責任者立ち合いのもと各装備品等が仮設置できる時点を目安とし実施する。

(2)完成検査

車両新規登録後、納入場所において、本仕様書に基づき車両、艀装状況及び取付品並びに付属品の規格等の検査を実施する。

第2章 受注業者の責務

受注業者は、本仕様書内容に従うとともに、次の事項について確実に履行すること。

また、製造者、納入者等が別に存在する場合は、責任を持ってこれらの関係者を統括すること。

1 登録等

(1)車両新規登録及び緊急自動車登録に係る手続等を代行すること。

(2)「自動車損害賠償責任保険料」、「自動車重量税」及び「リサイクル料金」は、笛吹市が負担する。

(3)納入時には道路交通法施行令(昭和35年政令第270号)第13条に基づく公安委員会による緊急自動車指定を受け、緊急走行を行うために必要な書類(本紙)を車両に備えた状態とすること。

(4)受注者は既存の車両について責任を持って一時抹消登録の手続きを行うこと。また、抹消手続きには、車両外観に施されている本部名等の表記及び緊急車両に適用されるサイレ

ン、赤色灯等の削除及び取り外しも含むものとする。(削除方法については担当課と別途協議)

(5)受注者は、契約後仕様書詳細について当消防本部担当者と打合せを行い、製作承認図等を当消防本部に提出し、承認を得て製作に着手すること。

2 製作中の問題処理

車両の製作にあたっては、工業所有権に関する法令に抵触する問題及びその他の問題が発生した場合は責任をもって解決すること。

3 事故防止

車両の製作及び移動にあたっては、事故の防止に万全の注意を払い、万一、事故が発生した場合は、速やかに当消防本部に連絡するとともに、その被害等について一切の責任を負うこと。

4 保証期間等

(1)保証期間は、車両、艤装及び各種資機材の各製造業者等が指定する期間とする。製造業者等が指定する期間が納入後1年未満の場合には、納入後1年とする。

(2)保証期間後であっても設計不良、工作不良、艤装の不備、あるいは材質不良等、明らかに瑕疵が認められる場合は、無償にて取替又は修理を行うこと。

また、受注者は保証期間後であっても、設計・製作・材料・部品等に関し、特許その他権利上の問題が発生した場合は、その責任を負うこと。

(3)緊急的な要請又は緊急的な修理には、必ず車両に関する確かな技術を有する担当者が6時間以内に来庁し、速やかに対処すること。

(4)車両は、納入から6か月後、12か月後等の適当な時期に、当消防本部の要請に応じて車両の異常の有無についての点検を無償で実施すること。

なお、車両に特殊艤装がある場合にはこれを含む。

(5)関係法令により定期点検が必要なものは、納入日から数えて最初の法令に規定する定期点検を無償で実施すること。(6か月点検等)

5 図書の提出

(1)契約締結後、契約日から1か月以内に納入物品(車両等)に係る打合せを当消防本部と行い、当該打合せから概ね2週間以内に打合せに基づいた次の図書を1冊に編さんしたものを2部提出し、図書の内容について当消防本部の承認を得ること。

また、提出図書内容の詳細について、承認後に仕様書内容の変更(詳細修正)を行う場合には、当消防本部にその内容を報告し、承諾を得ること。

ア 製作工程表

イ 製作構想(概要)資料(艀装5面図、配管図、各種資機材の配置図等)

ウ その他、当消防本部が指示するもの。

(2)契約後の製作にあたり仕様書の内容に変更が必要と判明した場合には、直ちに当消防本部と協議し、承認を得た後、指示に従うこと。

なお、協議時には次の資料を2部提出すること。(承認後は提出資料を1部返却)

ア 変更が必要となる理由書

イ 変更前後の仕様内容の違いについて説明する資料(図面等)

ウ その他、当消防本部が指示するもの。

(3)納入時に、次の図書をA4判に編冊したものを2部提出すること。

なお、資料が見易くまとめられるものは1つにまとめてもよい。

ア 諸元明細書(改造自動車等届出書(写し)、計算書及び車両重量実測表含む)

イ 最終の構造図又は設計図(艀装5面図、配管図、各資機材の配置図、無線関係資料含む電気配線図等)

ウ 写真(完成車両「新規登録前」の5面カラー写真、艀装関係及び製作経過等)

エ ポンプ性能を証明する書類

オ 自主表示の写し(消防法第21条の16の3に規定する表示の写し)

カ 事業費構成報告書

キ 車検証及びリサイクル券の写し

ク 緊急自動車登録の写し

ケ 取付品及び付属品のリスト

コ 車両に係る改造及び重量計算書

サ 本仕様書に要求する内容に適合することを証明する各種計算書、図面、成績表等の資料

シ その他、当消防本部が指示するもの。

(4)納入時に、次の冊子等を提出すること。

ア 車両取扱説明書 2部 (点検要領資料含む)

イ ポンプ取扱説明書 2部 (点検要領及び異常時対応用資料含む)

ウ 車両艀装品・取付品・付属品等の取扱説明書 各2部

エ 車両艀装品・取付品・付属品等の保証書 各1部

オ 工程写真

・製作中各工程(シャシ、組立中、塗装後)

・試験実施工程(転覆角度試験、重量実測試験、悪路走行試験、登坂走行試験)

カ 車両安定傾斜角度測定検査書

キ その他、当消防本部が指示するもの。

6 納入後の安全操作技能講習等

車両納入後、当消防本部の指定する日（日数については別途協議）に、当消防本部の職員に車両及び資機材の講習を行うこと。

なお、講習の区分は、納車時に行う納車講習とし、内容等については次表に示すとおりで、詳細については当消防本部担当者と打合せを行い、講習に係る費用について負担すること。

	実施時期	講習内容	講習期間
納車講習	納車時	取扱説明書、点検整備書等による各装置の構造、使用方法、使用上の注意事項、点検整備方法等の説明等	消防本部が設定

7 その他

- (1) 車両燃料及び車両の走行に必要なオイル類、冷却水、触媒液等の消耗物は、適正な範囲内の満量状態として納車すること。（車両に艤装される機械装置含む）また、本仕様書に記されていない事項にあっても、当然必要と思われるものについては契約金額の範囲内で協議すること。
- (2) 環境負荷の低減に努めるため、解体・リサイクルにおける取組として、一般社団法人日本自動車車体工業会が定める新環境基準適合ラベルを取得すること。
- (3) その他疑義が生じた場合は、双方協議の上、決定すること。

第3章 車両の概要

1 適合すべき要件

- (1) 緊急出動、消火活動及び風水災害ほか、あらゆる災害対応活動に適した構造及び機能を有すること。
- (2) 道路運送車両法（昭和26年法律第185号）、道路運送車両の保安基準（昭和26年運輸省令第67号）、その他関係法令、通達等に適合し、緊急自動車としての要件を満たし承認が得られるものであること。
- (3) 本書に示していない内容は、消防用車両安全基準検討会事務局及び日本消防検定協会が定める「消防用車両の安全基準について」の該当要件を全て満たすこと。
- (4) 車体及び構成（付属）する部品は、令和8年度以降に製作されたものを使用すること。

2 車両概要

本車両は、消防専用シャシにインデューサー付1段ボリュートポンプを装備し、河川、消火栓等の水利より強力な放水をなし、他の消防ポンプ自動車等への送水並びに単独放水を

行うものであり、長期の使用に十分に耐え得るもので、安全かつ確実に使用可能な構造、強度及び機能を有するものであること。

なお、車両は全般にわたり可能な限り小型化及び軽量化に努めること。

3 車両構成(詳細・レイアウト等は別途協議)

- (1) 車体形状は箱型とし、左右側面各2枚、後面1枚の手動バーとしアルミシャッタータイプとする。
- (2) キャビンはハイルーフでキャブバックを張り出す構造とすること。また、キャビン後方にポンプ室操作部(吸管収納含む)及び資機材積載庫(ボックス)とし、積載庫上部はルーフデッキ仕様で車体(シャシ)に次の艤装をすること。
- (3) 車両側板は一般構造用圧延鋼材(SS)を使用し、周囲を外側に折り曲げ加工し、各ステップはアルミ縞板にて端部周辺を折り曲げ加工した構造とする。
- (4) 車体両側板は嵩上げ加工を施し、シャッター内の開口面積を最大限確保するため、シャッターの巻取り装置は嵩上げ部分に隠ぺいする構造とし、赤色点滅灯及び作業灯(照明灯)を埋め込み式にて左右各2個設けること。
- (5) ポンプ室側板は密閉式とし、点検手入れが容易に行える構造とすること。
- (6) ポンプ操作部下部に資機材収納スペースを設けること。(詳細は別途協議)
- (7) ポンプ室左右下部収納ボックスの扉はステップ兼用の展開式とし、扉内部にアルミ縞板を張ること。
- (8) ポンプ下部は、資機材収納庫とすること。
- (9) 後輪後部左右に資機材収納ボックスを設け扉はステップ兼用とし走行中の開放防止措置を施すとともに、扉内側にアルミ縞板を張ること。
- (10) 車体両側面シャッター内はポンプ室及び資機材収納庫とし、収納スペースの容積は可能な限り多く確保し、かつ、積載品固定金具、間仕切り、棚、引出装置、予備ボン(4本)入れ、水抜き穴等を設けること。

4 車両諸元

(1)車体

- ア 全長(車長) 6.0m以下
- イ 全幅(車幅) 2.0m以下
- ウ 全高(車高) 3.3m以下
- エ ホイルベース 3.0m以下
- オ 車両総重量 7,500kg未満
- カ シャシは緊急時においても整備性の優れた国産車を使用すること。

(2)キャブ

消防用標準幅ダブルキャブオーバー型

- ア 乗車定員は5人以上
- イ 電動キャブチルト装置付(非常時用手動キャブチルト機能付)
- ウ 電動式集中ドアロック
- エ パワーウィンドウ、パワーミラー、補助ミラー(補助ミラーは助手席側のみ)
- オ フォグランプ
- カ 運転席及び助手席等にSRSエアバッグ

(3)エンジン

- ア 使用燃料 軽油
- イ 機関定格(最高出力) 110kW以上
(走行に際して十分に余裕のあるものであること)
- ウ エンジンガバナ 電子制御式
- エ 付属計器類 エンジン回転計、アワーマーター及び油温計
- オ 総排気量 4,000cc以上(最新の排出規制に適合していること)

(4)操舵駆動装置

- ア 操舵装置 パワーステアリング装置
- イ 駆動方式 四輪駆動
- ウ タイヤ ノーマルタイヤ及びスタッドレスタイヤ(それぞれ予備1本を含める)
納入時の装着タイヤは別途指示する。
- エ トランスミッション 5速以上マニュアルトランスミッション

(5)電源類

- アオルタネータ 艀装を含む車両の使用に際して十分に余裕のあるもの。
- イ 蓄電池容量 12V-100AH又は24V-100AH以上(使用に際して十分に余裕のあるもの。脱着及び設置後のメンテナンスが容易な位置に設置し天板付きボックス引き出し式)
- ウ 付属計器類 オルタネータによる発電及び蓄電池の状態を確認する計器
(電圧及び電流の状況等が判るもの)
- エ エンジンアワーマーター

(6)制動装置

積載重量を考慮し充分制御できるよう次のとおり製作すること。

- ア 主ブレーキ 空気式又は油圧複合式(衝突被害を軽減できるブレーキ付き)
- イ パーキングブレーキ装置 空気式
- ウ 補助装置 車両安全制御機能及び坂道発進補助装置付

第4章 車両(艀装)の詳細

1 共通事項

- (1)艀装材料は、可能な限り軽量素材等を使用し総合的な軽量化を図るとともに、車両全体の重量のバランスを考慮して製作すること。

- (2)車室は堅ろうな天蓋及びドアを有すること。安全に乗車できる座席を設け、乗員席及び人が接触する可能性のある部分にあつては、鋭利な物体又は端部が露出しておらず、可動部分並びに高温となる部分については、危害防止の措置を講じること。
- (3)車体及び艀装部分の日常及び年次等の点検が必要な箇所は、点検用スペース、点検口等を設けるとともに、照明装置を備える等により容易に確実な点検を行うことが出来るよう措置を講じること。
- (4)人の踏み面には、耐候性を有し吸湿せず、十分な強度を有する材料(アルミ縞板等)で有効な滑り止め措置を講じること。(タラップ等の十分な幅のない部分においては耐候性を有し吸湿しない材料での被覆でも可)
- (5)高低差の大きい箇所には、昇降用のはしご、ステップ及び足掛け等を設けること。
なお、高低差が大きいとは、地面から1段目は600mm超で、その他各段の間隔は400mm超とする。
- (6)走行時における安全確保に必要な握り棒、運転室への乗降時に安全に昇降するための手すり(滑り止め加工)等を設けること。
- (7)雨水等が滞水しないよう処置すること。
- (8)艀装高さは、キャブ天井部に設置する赤色警光灯の高さを大幅に超えないこと。
- (9)車両の重要な点検箇所及び主要な部分の点検整備に関して、工具類を使用するためのスペースを確保するとともに、必要箇所には点検口又は点検扉を設けること。
- (10)各操作部(ハンドル、レバー等)に名称及び操作方法を明記すること。
- (11)スイッチ、ヒューズ
 - ア 各スイッチはエンジンキーのACC連動とすること。
 - イ 各ヒューズには、視認しやすい箇所に名称及び容量の表示を行うこと。
 - ウ スwitch類には、名称及び「入・切」又は「ON・OFF」を表示すること。

2 キャブの構造

- (1)キャブはシャシ固有の鋼板製ダブルキャブオーバー型とすること。
- (2)キャブ上部は軽量かつ、十分な強度を有し、軽量性、耐久性、耐熱性に優れたFRP(グラスファイバー)製ハイルーフとすること。
- (3)キャブ側面には組込み式のLED作業灯を装備し、足元や周囲を照射し夜間活動時の安全性を確保できる構造とすること。
- (4)赤色警光灯はキャブと一体埋込型とし、キャブ上部左右及び前方中央に設け、省電力、球切れの少ないLED式とすること。なお、車両側方及び前方一帯を照射できる配置とすること。
- (5)電子サイレン用スピーカー及びモーターサイレンをキャブ上部前方中央部に埋込一体型にて設けること。また、電子サイレン用スピーカーは、前方音量を確保しながら、車内側への音量を大幅に削減するアクティブ制御スピーカーを採用すること。

- (6) キャブ内後部座席上部の前後にはオーバーヘッドコンソール(物入れボックス)を設けること。なお、ボックス手前側には飛び出し防止措置を講じること(別途指示)。
- (7) 後部座席に空気呼吸器内蔵型座席ボストロムシート(背当て)を3席設けること。また、座席内蔵空気呼吸器固定装置はウォーカーウェイブラケットとし、着座したまま容易にホルダーを開放できること。
- (8) 後部座席背面に空気呼吸器の面体掛け用フックを3箇所設けること。
- (9) 助手席は空気呼吸器埋込型レスキューシートとすること。なお、助手席はできる限り後方へ配置することとし、座面の角度についても後方へ傾け、乗車空間を確保すること。
- (10) 乗降用の手摺をキャブの両側面に設けること。
- (11) 乗車人員の走行時においての安全に必要な握り棒、手摺を設けること。なお、取り付け場所については別途指示する。
- (12) 前席と後席の間に手すりを設け、取り外し可能なS字フックを10個設けること。
- (13) 地図等を収納するボックス(A3サイズ)をキャブ内中央部手摺に1個設けること。なお、ボックスはラプターライナー塗装とすること。
- (14) 電子サイレンアンプ、スイッチ類等は、前席上部もしくはダッシュボード内に取付けること。配置場所については別途協議とする。
- (15) キャブ内天井にはLED車内灯を設けること。
- (16) バッテリーは引き出し式にて容易に点検ができること。
- (17) バッテリーメインスイッチを設けること。
- (18) 車両前面中央部に消防章を取り付けること(マットブラック塗装)。
- (19) 車両前面バンパー部分に支点用のバウシャックルを2箇所設けること。
- (20) キャブ内運転席と後部席の間のピラー付近にサーキュレーターを1個設けること。

3 水ポンプ装置

- (1)ポンプ(艀装材料は動力ポンプの技術上の規格を定める省令(昭和61年自治省令第24号)の規定に適合するものであること。)

ア 規格 A2級以上

イ 型式等

インデューサー付1段ポリユートポンプ(日本消防検定協会の受託試験合格品であること。)

ウ 操作性等

(ア)視認性 暗所でも確実な操作が可能であること。

(イ)確実性 真空及び送水(送圧)状況が確認可能なものであること。

エ 整備性

(ア)点検整備を容易に行える構造であること。

(イ)必要時には車台から容易に脱着が可能であること。

(ウ)走行やポンプ使用により発生する振動等により移動又は破損を生じないよう安全確実に固定できるものであること。

オ 排水装置

排水装置は、電動式としPTOスイッチに連動して作動すること。また、非常用PTOを使用することで、エンジン停止時にドレンの開放をストップできる構造とする。

- (2) 水ポンプは、シャシエンジンのP.T.Oにより駆動されること。また、P.T.Oスイッチは車内及びポンプ操作部のどちらからでも駆動できること。
- (3) ポンプ材質は車両全体の軽量化を考慮し、アルミ製とすること。ただし、砂利等の混入対応できるよう強度、耐腐食性も考慮し、インペラは青銅鋳物製(CAC製)とすること。
- (4) スペースを有効利用するため、ポンプはギアにより増速を可能にした1段ボリュートポンプを使用し、小型化すること。
- (5) キャビテーションを抑制するため、吸入口にインデューサーを設けること。
- (6) グランド部はグリスレスのメカニカルシールとし、不凍液や作動油、グレーチングオイル等の使用及び継ぎ足しも必要ない構造とする。なお、軸先端部もグリスレスとする。

4 真空ポンプ

- (1) ピストンを左右に動かし吸排気バルブにより空気を排出するピストン式真空ポンプとする。
- (2) 真空ポンプ本体は注油装置を必要としない完全オイルレス構造とする。
- (3) クラッチ形式は電磁クラッチ式とすること。
- (4) 真空ポンプの操作は、計器盤直近に設けた操作盤にて行い、作動ボタンONにより自動的に真空ポンプ駆動に適正な回転まで上昇し、揚水完了と同時に自動停止しアイドルリング状態に戻る構造とする。なお、非常用の別系統スイッチを設けること。
- (5) 真空性能は吸管外端閉塞にて30秒以内に大気圧の84%とすること。
- (6) 気水分離機を必要としない構造とし、給水配管内の空気を効果的に排出するため、エアチャンバ方式とする。操作は押ボタン式スイッチとすること。
- (7) 真空ポンプの作動は破損防止のため、自動揚水時エンジン回転が一定回転以上では作動しない構造とし、回転が高い場合には自動的にエンジン回転を低下させた後、適正回転まで上昇する構造とすること。

5 安全機能装置付ポンプ操作装置

ポンプ操作装置は自動調光機能付多目的液晶ディスプレイと液晶ディスプレイ両側面に一体となったパネルスイッチを設け、操作員が容易に且つ安全にポンプ操作が行えるよう、次の機能を有するものとし、一つの操作盤で全てが行えるものとする。

- (1) 圧力計・連成計(リタード式)は直径100mmとしステッピングモータを用いた電子式(透過光照明灯・ゲージ部作動確認ランプ付)を取付け、さらにディスプレイ内にはデジタル式

の圧力計と連成計の値表示と圧力の上昇下降を視覚的に示すインジケータを設けることで、視認性と安全性に優れたものとする。

- (2) ポンプスロットルは電子(エンコーダ)式スロットルとし、左右どちらでも同方向に回転することによってエンジン回転速度を上げ下げできるものとする。なお、表示はPTOを入れた時のみ反応すること。
- (3) 液晶ディスプレイは点検のため、起動用スイッチを個別に設け、PTOが非作動時でも表示できること。
- (4) ポンプスロットルは、誤作動を防止するための安全ロック機能を設けること。
- (5) 操作盤上に真空作動、停止(緊急減圧機能兼用)ボタンを設け、操作性を考慮し、φ20以上の照光スイッチを使用すること。
- (6) 多目的表示液晶ディスプレイの詳細は以下のとおりとする。
 - ① 液晶画面は7.0インチTFTカラー液晶とし、昼夜に関わらず認識しやすいよう自動調光機能を装備し、映り込み抑制樹脂封入式の高コントラスト比の低反射型硬質パネルとする。液晶ディスプレイの使用温度範囲は、-30度から60度とし液晶画面には結露防止対策を施すこと。
 - ② より正確な圧力値の確認を容易にするため、ディスプレイ内にはデジタル式の圧力計と連成計の値を表示し、さらに、圧力の上昇下降を視覚的に分かりやすく確認できるよう、インジケータも併せて表示すること。
 - ③ 取扱表示(操作盤及び非常用操作盤の操作方法、使用油脂一覧、不具合時の対応フローチャート等)をPDF表示ができること(拡大・縮小が可能なこと)。
 - ④ モニタ表示(警告モニタとして冷却水及び揚水装置作動タイムに対する警告表示ができ、なおかつ警報が鳴るようにすることとし、各ボールコック及びバイパスバルブの開閉状況、揚水・放水の状況確認ができ、回転計・圧力計・連成計・流量計、積算流量計、放水反動力計、電源電圧を各々デジタル数値により表示できるものとする。)
 - ⑤ 流水表示(各ボールコックの開閉状況、ポンプの運転状況及び放水時における水の流れる状況が把握できる流水表示ができること。)
 - ⑥ ディスプレイ内の各表示切替は液晶パネル左右に設けられた一体式のパネルスイッチにより行えるものとする。
 - ⑦ 各放水口の放水流量をデジタル表示し流量範囲によって表示色が変化すること。流量範囲は、筒先を一人保持で放水できる範囲は緑色の背景、二人保持で放水できる範囲は赤色の背景、二人保持でも放水ができない範囲は灰色の背景に分けるものとし、絵柄等にて何名かわかるようにもすること。また、積算放水量もデジタル表示できること。
 - ⑧ 隊員の安全確保のため、左右放水口の放水時使用ノズルでの反動力をニュートン単位で表示できること。パネルスイッチにて流量表示と反動力表示が切り替えられ

ること。

- ⑨ ディスプレイ内の各種操作及び表示切替は、手袋装着時でも確実に操作が行えるようパネルスイッチとする。
 - ⑩ シャシDPRインジケータランプの出力を液晶パネル内にも表示可能なこと。
 - ⑪ 運転条件の確認や安全機能作動時については、液晶パネルに種類によって色を分けて表示を行うものとし、警報の内容の説明や対処法等も併せてテキスト表示されること。
 - ⑫ ポンプ増速機のオイル交換日を入力できるものとし、当該オイル交換の管理が可能なこと。また、オイルレベルの低下や交換時期にはその旨が表示されること。
 - ⑬ カレンダー・時計機能
現在の正確な日付・時刻を確認するための機能を液晶ディスプレイ内に表示すること。表示する日付・時刻はGPS衛星電波を受信し、自動的に時刻を補正する機能を有すること。
- (7) 非常時における真空形成装置及びスロットル操作はポンプ室右側に設けられた別回路の手動操作装置にて行えるものとする。
- (8) ポンプ操作装置には隊員の安全を確保するため、次の安全機能を設けること。
- ① スロットル固定機能
不用意にスロットルに触れてもエンジン回転の上昇を防ぐようスロットル固定機能を設けること。ただし、固定した場合でも安全方向(スロットルダウン)には操作できるものとする。
 - ② ホース耐圧警報機能
放水配管の圧力がホースの耐圧を超えると警報音とともに液晶ディスプレイに警告を表示し、圧力がホース耐圧以下となるよう自動で回転を下げるものとする。制御のON/OFF及びホースの耐圧設定が行えること。
 - ③ 上限圧力設定機能
ポンプ上限圧力値を任意に設定し、設定圧力以上にポンプ圧が上がらないためのポンプ圧上限設定機能を設けること。
 - ④ 自動調圧機能
機関員の負担を軽減するため、自動調圧装置を設けるものとし手動にて任意の圧力に上昇させた時点で設定する方法と、予め設定された7種類以上の設定圧力をワンタッチにより選択する操作方法が併用できる構造とすること。自動調圧機能の解除については、スロットル操作を行った場合自動的に解除される構造とするとともに、ワンタッチにて解除も可能な構造とすること。
 - ⑤ 高圧中継警報
自動調圧中に中継圧が高く、エンジン回転数をアイドルまで下げても設定圧まで下げられない時、警報音とともに液晶ディスプレイ内に高圧中継警告表示が点

滅し、その説明と対処法が表示されること。

⑥ 低圧中継警報

中継水量が不足している時、警報音とともに液晶ディスプレイ内に低圧中継警告表示が点滅し、その説明と対処法が表示されること(ON/OFF機能付き)。

⑦ スロットルインターロック

PTOがつながっていない場合は、全てのスロットルダイヤルを操作してもエンジン回転操作ができないスロットルインターロック機能を設け、スロットルの開度表示もPTOが入っている時のみ変化する。

⑧ 緊急減圧機能

左右操作盤にボタン式の緊急減圧スイッチを設け、ボタン作動時は即座にエンジン回転をアイドリングまたは安全な回転数まで下げ、水吐出圧力を減圧する構造とすること。なお、通常の放水終了時にも使用できるよう、減圧後はスロットル操作すればすぐにスロットルアップできる構造とすること。

⑨ ダイアグ機能

不具合が発生した場合に、原因の特定を容易にするため、ダイアグ機能を設け、エラー履歴を10件程度記録し、液晶ディスプレイ内で確認できること。

⑩ 吸水圧力警報装置

操作員が正確な対処を行えること、また、水ポンプの破損防止の観点から、(高低差やちりよけ籠等の詰まりによる吸水量不足で起こるキャビテーション、吸管の浮きによる空気混入、ドレンや吸水側配管に気密漏れの発生時やバイパス操作時等に)スロットルを上昇させているにも関わらず圧力が増加しない場合や、圧力が降下する場合には、ポンプ操作画面内に警告を表示し、また警報も発すること。

⑪ 真空テスト機能

点検を容易にするため、真空テスト機能を設け、エンジンをOFFにしなくてもポンプ操作装置に設けられたPTOスイッチのOFFのみで漏気チェックが可能なこと。真空ポンプ駆動後、所定の真空度まで下がればOKと表示し、30秒経過後も規定値まで下がらなければNGと表示すること。また、真空テスト完了後、30秒間に規定値以上の漏れがなければOKと表示し、漏れがあればNGと表示すること。

⑫ 落水警報装置

揚水待機時の想定外の落水を防止するために、揚水完了後はポンプ作動後、1分程度落水状態が続くと警報を表示すること。

⑬ 強制真空作動機能

配管内の空気溜まりの排出が必要な場合、揚水状態でも真空作動ボタンを押している間だけ真空形成が可能なこと。

⑭ 音声ガイダンス機能

ポンプ運転中における、各種のエラーが発生した際に、以下のエラー内容とエラー

対処方法を機関員に音声にて知らせることにより、エラー発生に対して的確な措置が行え、より安全で的確な操作を支援する機能を設けること。

ア 冷却水警報装置

イ 真空タイム警報

ウ 低圧中継警報

エ 高圧中継警報

オ 吸水圧力警報

カ 真空タイムエラー

6 放水及び吸水等の配管(ホース結合用ネジ部の艤装材料は、消防用ホースに使用する差込式又はねじ式の結合金具及び消防用吸管に使用するねじ式の結合金具の技術上の規格を定める省令(平成25年総務省令第23号)の規定に適合するものであること。)について、車体にポンプと接続する次の配管等を設けること。

なお、配管途中には、走行やポンプ使用により発生する振動等を吸収し、配管及び配管支持物の劣化を防止するための緩衝措置を適当に施すと共に、配管内全ての残水を有効に排出できるよう必要箇所にドレンを設け、かかる最高圧力で変形等することのなく十分に余裕をもった強度とし、かつ、圧力損失の低減に努めた構造とすること。

(1) 吸水口

呼称75mm、ネジオン、エルボ付き、ボールコック(ストレーナ付)とし、車両両側に各1個設け、75×10mの吸管を常時1本以上接続する構造とする(連続呼水装置付)。なお、吸管は車両中央付近に設け、左右どちらからでも引き出し可能な構造とすること(サイドプル方式)。

(2) 中継口

呼称65mm、ネジオン、ボールコック付きとし、車両両側に各1個設けること。

(3) 放水口

呼称65mm、ネジオン、ボールコック付きとし、車両両側に各2個設けること。なお、放水口は50mmホース、65mmホースとも特別な金具等を使用せず接続できるマルチタイプとすること。

(4) 吸水口には、取付ける媒介金具に適合した落下防止用措置(チェーン等)を施したキャップを附属すること。

7 資機材用収納庫(ボックス)

(1) ポンプ室の左右、前又は後部等の適当な箇所に重量バランスを考慮した上で可能な限りの数及び大容量のボックスを設けること。

(2) ボックスは、特に指示する場合を除き、左右側面各2枚、後面1枚のアルミ製シャッタータイプとすること。なお、シャッターは走行時の振動により、歪み、ガタつき及び開放す

ることがないようにロック装置(バータイプ)等を設けるとともに、巻き込み時には、シャッター表面が損傷することのない措置等を設けること。

- (3) ボックス内には、シャッター等の扉の開閉に連動したLED式照明を有効に設けるとともに、扉開放時には運転席内に「開」であることを示す表示を設けること。
- (4) ポンプは、シャッター式ボックス内に設置すること。なお、当該ボックス内は、ポンプの操作性、照度及び整備性に十分考慮すること。また、各操作部(ハンドル、レバー、スイッチ等)には、名称及び操作方法等を明記すること。
- (5) ボックス内には、適当な間仕切り及び高さ位置が変更可能な棚板(2～3枚程度)を設け、別表1に示す附属品を収納するが、収納に当たっては走行による揺れや収納物の移動を考慮し、収納物や車体の損傷及び収納物が落下しないよう配慮した上で、収納物を容易に出し入れできる構造とすること。(収納部のレイアウトについては別途協議)
- (6) ボックス内への収納物の出し入れが高所となる又は収納物が重量物である等の場合には、扉の全部又は一部を強固な構造の展開式(ステップ兼用扉とする)等により、安全に作業を行えるよう考慮すること。
- (7) ボックス内に、必要に応じてスノコ板(合成樹脂製等)等を敷くこと。
- (8) 各扉と各収納スペースの間に防水措置を施すこと。
- (9) 車外に面する全ての扉(蓋)には、走行時の振動により開放することがないようにロック装置等を設け、車両側面に設ける展開式等の扉(ステップ含む)には、扉の側面に反射テープを貼付すること(反射テープの種類については別途指示)。
- (10) 車両天井に、油吸着材等の資機材を収納するための脱着可能な縞板製のボックスを設けること。(ダンパー及び吊り上げフック付き・サイズは、長辺2,300mm×短辺600mm×高さ500mm程度とする)
- (11) 車両天井に、積載はしご昇降装置を設けること。また、地上から操作できるよう引出展開式とすること。
- (12) 車体後面右側に天井昇降用展開式はしご(タラップ)を設けること。
- (13) 車両左右の適当な場所に天井昇降用のはしご(タラップ)又はステップを設けること。
- (14) 車両後面シャッター内に電動アシストホースカー(ヤマハ クロスクイッカー)を電動昇降装置付きで設けること。なお、電動アシストホースカーの詳細な仕様については別途指示する。

8 照明装置(車両関係は除く)

- (1) キャブ内照明灯はLEDとすること。
- (2) 各収納スペース内にLED照明灯(扉開閉連動型)を必要数取り付け、メインスイッチをキャブ内に設けること。
- (3) LEDサーチライトを車両の左右に各1箇所設け、ON/OFFスイッチを各サーチライト付近の容易に操作できる箇所に設けること。

- (4)車両左右及び後部に車両周辺を照らすためのLED照明灯(作業灯)を各2個設け、車外の容易に操作できる箇所にオンオフスイッチ及びキャブ内にメインスイッチを設けること。
- (5)車両下部の車両左右後部付近に路肩灯、適当な箇所に車幅灯を取り付けること。なお、路肩灯、車幅灯はライトスイッチ連動とすること。また、路肩灯については、点灯時に周囲車両等から眩しくない構造とすること。

9 警光灯及びサイレン(電子サイレンアンプ含む)

- (1)キャブ屋外天井部に赤色警光灯(標識灯、スピーカー一体型)を1箇所、キャブ前面、ボディー左右及び後面に点滅式の赤色警光灯(ステンレス製保護枠付)を各2箇所均等に設けること。
なお、全ての赤色警光灯は、電子サイレンアンプ操作と連動し、後面の赤色警光灯サイズは幅15cm×10cm以上とすること。
- (2)電子サイレンアンプ(録音・再生機能、ハンドマイク)を、運転席又は乗員席から操作ができ、かつ、運転やエアバックシステム等の支障とならない箇所に取付けること。(音声内容は別途協議)
- (3)キャブ内後部席の乗員が容易に電子サイレンアンプのハンドマイク操作を行えるよう、ワイヤレスハンドマイクを1個付属すること。なお、ワイヤレスハンドマイクが不都合な場合は有線タイプとし、前席と後部席の中央付近にハンドマイク用のチャックを設けること。

10 消防専用電話装置類

- (1)当消防本部の既存車両のデジタル式消防専用電話装置無線装置(以下「無線装置」という。)一式及びデジタル式無線対応車載情報端末装置(以下「AVM装置」という。)一式を移設すること。
- (2)無線装置一式の出力はエンジンキーのACC連動とし、AVM装置一式はバッテリー直接接続とすること。
- (3)各一式の配置は、車両操作及び車両並びに他の機器の点検整備等の妨げにならないようにし、必要であれば、アンテナ・配線等は新品を使用すること(配置については別途協議)。
- (4)操作部(無線送受話器含む)は、インパネ部、ダッシュボード又はキャブ内収納ボックス等の運転席又は乗員席から操作ができ、かつ、運転やエアバックシステム等の支障とならない位置に取付けること。
- (5)無線装置本体は埋め込み式とすること。
設置後にメンテナンスが行えない場合においてはこの限りでない。
- (6)車内の運転及び乗車の支障のならない位置にスピーカーを設けること。
- (7)車外無線用のスピーカー及び送受話器(ボックス付き)を、車両左右ポンプ室付近の

- 適当な箇所にそれぞれ設け、スピーカー内外切り替えスイッチをキャブ内に設けること。
- (8) 無線の送受信時に雑音が入らないよう、アースボンディング等の措置を施すこと。
 - (9) 全ての配線接続部は設置後のメンテナンスが容易に行えるようにすること。
 - (10) 全ての取り付けは、長期の振動や使用にも耐えうるよう車体に確実に固定すること。
 - (11) 車外については、防水(防雨)対策を確実に行うこと。
 - (12) 無線装置の取付位置を当消防本部担当課と協議し、承認を得た後に設置すること。
なお、協議に際して当消防本部担当課から求められた場合には、設置位置の解かる資料、配線図(本体・アンテナ・関係品等)及び設置環境を示す資料等を提出すること。また、取付業者は当消防本部が保守契約している者とし工事内容は関係機関と十分打ち合わせを行うこと。

11 車両取付品

- (1)フロントパネルに消防章(マットブラック塗装)
- (2)フロントバンパー上部にアルミ縞板張り(ステップ)
- (3)車体フレームに大型車両の牽引及び支点として十分耐えうる堅牢なフック(フロントはバウシャックル2箇所、リアはフックを1箇所)
- (4)キャブ左側にステンレス製の訓練旗旗立て(ストッパー付、内径25mm、長さ250mm)
- (5)オイルパンヒーター(サーモスタット及び10m以上の電源コードを含む)
なお、車両側コンセントは防水装置を設けること。
- (6)車両待機時に商用電源により車両のバッテリーを充電する装置(過充電防止機能付通称「ずぼら充電器」同等品可、マグネットプラグ付接続コード15m以上を含む。)
なお、車両側のコンセントはマグネット式とし、防水装置を設けること。
- (7)各車輪に泥よけ(マッドガード)
- (8)各ドアに樹脂製サイドバイザー
- (9)運転席及び助手席にサンバイザー
- (10)キャブ内に空調装置(エアーコンディショナー)
- (11)AM/FMラジオ
- (12)デジタル時計(ラジオ等に常時表示の時計表示のある場合にはこの限りではない。)
- (13)助手席に照射方向を自由に変えられるスポットライト(高照度LED灯)
- (14)キャブ内にAC100V用2口コンセント(埃侵入防止構造)
- (15)キャブ内にA3サイズの地図が収納できるコンソールボックス(ラプターライナー塗装)
- (16)フロアーマット一式
- (17)防水性能を有する座席
- (18)最新型のETCを取り付け、セットアップを完了した状態で納車すること。
- (19)ドライブレコーダー(次の全ての条件を備えているもの)
ア 車両前後が撮影可能で、撮影範囲は前後方向とも取付車両で最大範囲のもの

イ 車両の運行状態を画像と音声に記録

ウ 解像度、画素数は最新型のもの

エ ドライブレコーダー機器本体に付属する記録媒体から外部記録媒体に記録情報が取り出せるもので、接触事故等のイベント発生時の記録が上書きされないものであること。

オ 上記「エ」の外部記録媒体を附属すること。

(20)バックアイカメラモニター(モニターサイズは7インチ以上)

(21)カーナビゲーション(TVチューナーなしのもの)

(地図データは全国最新版とし、走行中でも助手席より操作可能であること。)

(22)上記(18)～(21)の機能については、一体型若しくは複合型のものでも良い。

ただし、個々の性能を有するものとする。

(23)後退警報器(解除スイッチ付)

(24)空気呼吸器固定装置(ウォーカーウェイブラケット)

(25)車両にはIoT端末を搭載し、ポンプ等の故障や不具合の早期発見、解決ができるようIoTシステムを活用し、故障時の遠隔診断ができる機能を備えること。

12 ITS Connect

(1)緊急走行時において事故リスクの軽減や現場到着までの時間短縮を図るため、緊急車両である旨が発信可能なITSコネク特車載器を装備し、騒音等でサイレンが聞こえにくい状況においても、周囲のITSコネク特搭載車両に対し、本車両の接近を通知可能なこと。

(2)本車両の周囲にサイレンを鳴らしているITSコネク特を搭載した他の緊急車両が存在する場合において、警告音と本車両に対するおおよその方向・距離・緊急車両の進行方向、緊急車の種類(消防車・救急車・その他緊急車)を表示することで本車両の運転者に対し注意喚起を行うこと。

(3)路車間通信システムに対応した交差点において、右折時に路側装置が検知した死角の対向車や右折先の横断歩行者の情報を受け、接近している対向車や歩行者がいる状態で発信しようとした際に、本車両の運転者に対し、表示と警告音による注意喚起を行うこと。

(4)路車間通信システムに対応した信号機より、信号情報(灯色や残秒数)を取得し、赤信号の状態において交差点へ進入する際、減速がなく信号を見落としている可能性がある場合、本車両の運転者に対し、表示と警告音による注意喚起を行うこと。

(5)路車間通信システムに対応した信号機より、信号情報(灯色や残秒数)を取得し、本車両の運転者に対し、赤信号の待ち時間表示による運転支援を行うこと。

(6)端末機には4.3インチディスプレイを設け、注意喚起以外の際はGPS電波による時間表示が可能なものとする。

13 文字等の標記及びデザイン

- (1) 車両の前後面に「PUMP- I」
- (2) 車両の左右ドア面に上段に「FUEFUKI CITY」(黒帯内に白字)、下段に「FIRE DEPT.」(黒色)でいずれも反射
- (3) 車両左右のシャッター面に上段「FUEFUKI」、下段「FIRE PUMPER」(黒色反射)
- (4) 車両の後面に上段は黒帯内に白字「FUEFUKI CITY」、下段は黒字で「FIRE DEPT.」
- (5) 字体はアベンジャーズフォント
- (6) 車両のキャビン室天井に対空標示「笛吹P1」
- (7) 赤色警光灯の標識灯に「笛吹市消防」(両面ある場合は両面に標記)
- (8) 車両後部のシャッターの左右に赤と濃灰色でシェブロンマーキング
- (9) 左右の赤色警光灯下部、ドア及びシャッター面のデザインは別途指示する。
- (10) その他標記文字、サイズ及びデザイン等は別途指示する。

14 塗装

- (1) 車体は完全に錆落としを行い、防錆処理後、防錆性能が高く長期にわたり錆の発生を防ぐ二液性エポキシプライマー(ハイパーエポキシプライマーSSM)を使用し、パテ、サフェーサ(ウレタンプラサフSSM)を施工後、充分に乾燥させてから、ハイソリット型ウレタン樹脂赤色塗料により2回以上の塗装を実施し、その上には光沢と耐候性向上のためクリア塗装を2回以上施すこと。塗装後は磨き作業により塗装表面を整えること。
- (2) 車体の甲板部及び下回りは完全に錆落としを行い、防錆処理後、黒色塗装とすること。
- (3) 塗料は環境に配慮され、労働安全衛生法に基づき定められた特定化学物質障害予防規則対応品を使用すること。
- (4) ポンプ配管は防錆性、防食性に優れたカチオン電着塗装とすること。
- (5) ボールコックは銀色塗装とすること。
- (6) ボックス内の塗装色は銀色塗装とすること。
- (7) サイドミラー裏面及びステータはラプターライナー塗装とすること。
- (8) シャッターは赤色塗装とすること。
- (9) フロントグリルは外板部と同色の塗装とすること。
- (10) 車両後面のはしご昇降装置の取手及び天井への昇降用はしごはラプターライナー塗装とすること。
- (11) 各シャッターの開閉バーはラプターライナー塗装とすること。
- (12) その他塗装箇所の詳細については別途指示する。

14 消火用ホースについて

消火用ホースについては次のとおりとする。

(1) 共通事項

ア 消防用ホースは、ホースジャケット・結合金具で構成し、火災等の消火活動において使用するものであり、軽量コンパクトであること。

イ 納入する消防用ホースは、この仕様に定めるほか次に掲げる関係法令に適合すること。なお、本仕様書に適用又は引用する法律・省令等の文章は、本仕様書の一部をなすものであり、特に版の変更がない限り、契約時における最新版とする。

(ア) 消防法

「昭和23年法律第186号」

(イ) 消防用ホースの技術上の規格を定める省令

「平成25年3月27日 総務省令第22号」

(ウ) 消防用ホースに使用する差込式又はねじ式の結合金具及び消防用吸管に使用するねじ式の結合金具の技術上の規格を定める省令

「平成25年 総務省令第23号」

(エ) その他、上記に係る法令・通達及び告示等

(2) 表示

ア 消防用ホースには、自主表示対象機器等に係る技術上の規格に適合するものである旨の表示<消>、及び日本消防検定協会の品質評価を受けて「ホースに対する品質評価試験」に合格した表示<NS>が付されていること。

イ 消防用ホースには、一般財団法人日本消防設備安全センターが発行する推奨マークが付されていること。

ウ 消防用ホースと結合金具の装着部には、日本消防検定協会による装着部の認定を受けて「装着部に対する認定試験」に合格した表示<認>が付されていること。

エ 結合金具には、自主表示対象機器等に係る技術上の規格に適合するものである旨の表示<消>、及び日本消防検定協会の品質評価を受けて「結合金具に対する品質評価試験」に合格した表示<NS>が付されていること。

(3) 65mmホース仕様

ア 呼称65mm、長さ20mとする。

イ 使用圧は1.6MPa以上とする。

ウ ジャケットのたて糸はポリエステルスパン糸、よこ糸はポリエステルフィラメント糸とする。織り組織は綾織円織とする。

エ ホースの色は黄色とし、耐摩耗性を向上させるためにホース表面にクリア加工が施してあること。

オ 結合金具は軽合金製の町野式とし、リングによる締め付けとする。

カ 受け口(メス)金具の保護タイヤは夜間や屋内の消防活動の安全性・作業性

- 向上のため蓄光材配合の蓄光式保護タイヤとする。
- キ ホース結合部保護の為、ホースの両端に長さ15cm以上の保護布(ハカマ)を取り付けること。
 - ク 圧力損失向上のため、ホース内張り樹脂を平滑にし、リブレット加工を施していること。
圧力損失はホース1本あたり 流量1,000L/min 時に 0.07MPa以下であること。
 - ケ ホース内張り樹脂については、合成樹脂を使用し、工業標準化法(昭和24年法律第185号)第17条の日本工業規格K6251の引張検査を行った場合に30MPa以上であること。
 - コ ホース1mあたりの重量が 330 ± 10 g以内であること。
 - サ ホースの巻径については、38.5cm以内であること。
 - シ ホースの保証期間は、納入後1年間とする。ただし、保証期間後であっても製造上の不備、欠陥に起因する故障または破損の一切は、無償で取替えまたは修理を行うこと。
 - ス ホース本体に生産番号(シリアル番号)を表示し、納入後の製品管理が可能なものであること。

(4) 50mmホース仕様

- ア 呼称50mm、長さ20mとする。
- イ 使用圧は1.6MPa以上とする。
- ウ ジャケットのたて糸はポリエステルスパン糸、よこ糸はポリエステルフィラメント糸とする。
織り組織は平織円織とし、耳部補強が施してあること。
- エ ホースの色はオレンジ色とし耐摩耗性を向上させるためにホース表面に外面加工が施してあること。
- オ ホース腹部の全長に渡り、幅10mm以上の再帰性反射を有するラインを貼り付け、暗所での視認性を確保すること。なお、反射性能は JIS Z9117-14に準じた試験で「観測角 0.2°、入射角5°」のときに 540cd/lx/m^2 以上であること。また、日中の取り扱い時においても容易に反射材を識別できる色であること。
- カ 結合金具は軽合金製の町野式とし、リングによるオクトリング締め付けとする。受け口(メス)金具の保護タイヤは夜間や屋内の消防活動の安全性・作業性向上のため蓄光材配合の蓄光式保護タイヤとする。
- キ ホース結合部保護の為、ホースの両端に長さ15cm以上の保護布(ハカマ)を取り付けること。
- ク ホース体の保護の為に、ホース保護具(ハイスーパーリング)をホースの両端に取り付けること。
- ケ リング締めによるアルミリングについては、暗所での視認性を確保する為に反射材をリング全周に渡り貼り付けること。
- コ ホース内張り樹脂については、ウレタン系エラストマーを使用し、工業標準化法(昭和24年法律第185号)第17条の日本工業規格K6251の引張試験を行った場合に18

MPa以上であること。

- サ 納入後1年以内に、不慮の事故などによりホースが外傷を受けて使用できなくなった場合、速やかにホース交換ができるようすべての消防用ホースに1年間の動産保険がかけられていること。

第5章 附属品

車両の附属品は別表1～3とする。

なお、品名に「※」があるものについては、車体への取付装置等を要する。

別表1 車両附属品(ボックス内収納物)

No.	品 名	数量	備 考
1 吸収収納ボックス内			
1	吸口ストレーナー	2個	
2	吸収ストレーナー	2個	呼称65差込オス媒介金具付
3	吸収ちりよけかご	2個	
4	吸収まくら木	2個	
5	吸収ロープ(吸収控え綱)	2本	
6	消火栓媒介金具	2個	呼称75メスネジ×呼称65差込メス
7	吸収スパナ	2個	
8	ディスクストレーナー	1式	
2 その他ボックス内			
1	消火栓蓋キー(開閉金具)※	1個	消防本部指定のもの
2	消火栓バルブキー※	1個	地下式(消火栓蓋キーと一体であれば(1)と1とみなす。)
		1個	地上式
3	スタンドパイプ※	1基	差込式 収納スペースに取付け
4	可変ノズル※	2本	YONE セレクトオートGフォースノズル
5	補水接手	1式	呼称50差込メス×水道用ホース接続
6	ホースブリッジ	2組	1組2枚
7	同径媒介	各1個	50mm・65mmそれぞれオスオス・メスメス
8	異径媒介金具	1式	65町メス×50町オスAC 50町メス×65町オスAC 65町メス×65町メスAC 65町オス×65町オスAC

			50町オス×50町オスAC 50町メス×50町メスAC 50町メス×40町オスAC 40町メス×50町オスAC 75ネジメス×65町メス(消火栓金具)×2
9	燃料携行缶※	1缶	5L
10	伸縮ジャバラコーン	2本	蛍光白ライン付
11	車両整備用工具	1式	各種軽微な整備(照明交換等)に特殊な工具が必要となる場合

別表2 附属品(特に指定するものを除き、可能な限りボックス内に収納するもの)

No.	品 名	数量	備 考
1	吸水管 ※	2本	呼称75、長さ10m以上。消防用吸管の技術上の規格を定める省令(S61 自治省令第25号)基準適合品
2	とび口 ※	2本	概ね1. 8m
	ベンチレーションとび口	2本	1. 5m RightRescue
3	車輪止(樹脂製) ※	2組	1組2個
4	消火器 ※	1式	自動車用(ABC粉末消火器6. 0kg) ※取付装置含む
5	剣先スコップ ※	1本	
	角スコップ	1本	
6	斧※	1式	ライトレスキューハリガン&アックスレガシータイプ(マリードストラップ付)
7	金てこ※	1本	80cm程度
8	エンジンカッター※	1機	K540i-PRT(急速充電器QC500含)
9	バール※	1個	マルチプライ P7
10	鉄線カッター※	1本	ZBC-600
11	可搬式投光器※	1式	ハンドライト LEDLENSER D18R WORK
12	クイックシールド	1個	BIG FS JAPAN製
13	背負器※	1器	キャスター付き65mmホース3本以上 入るもの

14	折り畳み台車※	1台	使用後のホース運搬等に使用
15	分岐管	1個	入口65mm・出口50mm
16	消火用ホース65mmホース	25本	当消防本部仕様による
17	消火用ホース50mmホース	12本	当消防本部仕様による
18	消火栓吸水用ホース	2本	65mm×10m
19	ホースバック50mm用65mm用 ※	各2式	大型ホースバックFS1型 大型ホースバックFS2型
20	空気呼吸器(面体・アクセサ リー・メンテナンスキット含 む)	4基	MSA(M1 SCBAオプション品含) レスキューハンドル アタッチメントポイント ケブラーヘッドハーネス
21	空気呼吸器面体	4式	ケブラーヘッドハーネス含む
22	空気ポンペ	5本	(4.7L 29.4Mpa) 90度角カバー付
23	防爆ハンマー	1個	H-72FG

別表3 その他車両附属品

No.	品 名	数量	備 考
1	車両用媒介金具※	1式	呼称65ネジメス×呼称65差込メス 呼称75ネジメス×呼称65メス (中継口、吸水口数) マルチスイベルANS-65MC式×4 (放水口数・放水口については、50mm・ 65mmマルチタイプとする)
2	携帯警報器	4機	MSAモーションスカウト
3	ガス検知器	1式	アルティア5X サンプリングチューブ サンプリングフロート キャリングケース含む
4	キープアウトテープ	2本	
5	マンホール蓋開放キー	2個	持ち上げくん
6	チタン製3連梯子(昇降装 置・金具等含む)※	1式	ボックス天井に設置 KHFL-CT87
7	縞板製ボックス ※	1式	※サイズは2,300ミリメートル×600ミリメートル

			ル×高さ500ミリ程度とする。
8	ウェアラブルカメラ	5機	ファイヤーカム(mini)グローバルマウントセット
9	グローバルマウントセットのみ	5機	ファイヤーカム用
10	ノーマルタイヤ及び スタッドレスタイヤ	1式	タイヤ本数分、ホイール付(国内基準適合品) ※予備タイヤ1本ずつ付属すること。
11	タイヤチェーン	1式	
12	電子サイレンアンプ	1式	TSK-D152
13	ドライブレコーダー用 外部記録媒体(前後)	2台	microSDカード等(機種適合最大容量)
14	スペアキー	2本	
15	シートハーネス(ランヤード 等含む)	5組	ファイヤーレスキューハーネス (R51Bottom)、エグゾーAPフック
16	特定小電力トランシーバー (スピーカーマイク含む)	5台	トランシーバー(SRS220SA) マイク(MH-73A4B)
17	電動アシストホースカー ※昇降装置含む	1台	ヤマハ クロスクイッカー ※天板仕様は別途協議
18	熱画像直視装置	1式	フリヤー K55(予備バッテリー含む)
19	小型熱画像カメラ	4器	桜ホース SRTC-2
20	充電式保冷温庫	1式	マキタ CW002G(充電器、予備バッテリー含む)
21	コンビツール	1機	ウェーバー SPS270MK2 SMART-FORCE (予備バッテリー含む)
22	RITバッグ	1個	Courant RIT PAC ONE
23	RITライン	1式	スターリン サーチラインキット